

令和元年7月5日

令和元年度病害虫発生予察特殊報（第2号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名 : ヨツモンカメノコハムシ *Lacoptera quadrimaculata* (Thunberg)
2. 作物名 : サツマイモ
3. 発生地域 : 西牟婁地域、東牟婁地域
4. 発生確認の経過および県内外での発生状況

本年5月、新宮市においてサツマイモの葉を食害するハムシの成虫が見つかった。この成虫の同定を愛媛大学農学部 吉富博之博士に依頼した結果、ヨツモンカメノコハムシであることが判明した。その後、東牟婁地域のサツマイモほ場を調査したところ、那智勝浦町と串本町においても発生と食害が確認された。また、西牟婁地域の田辺市、白浜町、上富田町でも本種の発生が確認された。

本種は主に沖縄本島以南の熱帯～亜熱帯に分布していたが、平成11年に長崎県で確認されて以降、平成14年に鹿児島県、平成20年に宮崎県、平成21年に静岡県、平成24年に東京都（大島、三宅島）、平成27年に愛媛県、平成28年に山口県、大分県、高知県、平成29年に神奈川県から病害虫発生予察特殊報が発表されている。

5. 形態および生態

成虫は扁平な円形で、体長7.5～9mm。体の中央部はやや艶のある茶褐色、周縁部は半透明で黄褐色。鞘翅の前方と後方の縁に黒褐色の大型斑紋がある（図1）。幼虫は扁平な紡錘形で、周囲体側にトゲ（樹枝）状突起を有し、背面に脱皮殻や糞を背負う。

成虫出現期は4～11月。長崎県では成虫態で越冬して5月頃から産卵を開始し、ふ化した幼虫は7月以降に蛹化～羽化すると推定されている。

本種はヒルガオ科植物を食草とする。ヒルガオ科の中でもノアサガオとサツマイモを同程度に好み、アサガオとヒルガオはあまり好まない。

6. 被害の特徴

成虫、幼虫が葉を食害し、直径数mm～10mmほどの円形～不定形の穴を点々と開ける（図2）。サツマイモのイモは食害しない。

7. 防除対策

- 1) ヒルガオ科の雑草は本種の発生源となる可能性があるため除去する。
- 2) 発生が多い場合は、農薬登録情報を確認して薬剤防除を行う。

令和元年7月3日現在、「かんしょ」のヨツモンカメノコハマシに対して適用がある農薬は以下のとおりである。

農薬の名称	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
スミチオン乳剤	1000倍	100～300L/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布
コテツフロアブル	2000～4000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布
アクセルフロアブル	1000～2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布



図1. ヨツモンカメノコハマシ成虫



図2. サツマイモの葉の被害

和歌山県農作物病害虫防除所  
担当：井口  
電話：0736(64)2300